

協働企画！！

市民活動交流拠点

×
桜井市

×
奈良県立大学
地域サテライト



『公開講座』

＜聴講無料＞

住んでいたい、訪ねてみたい、まちづくりとは？



1日目：2015年2月7日（土）

① 13:00～14:30

「道の駅の展開と役割」

奈良県立大学 准教授 津田 康英

② 14:45～16:15

「観光客の望む交通体系と地元の意識」

奈良県立大学 教授 新納 克廣

2日目：2015年2月21日（土）

③ 13:00～14:30

「文化情報発信による地域活性化」

（桜井市のまちづくりの
成功ポイント）

奈良県立大学 准教授 高津 融男

④ 14:45～16:15

「着地型観光による地域振興」

奈良県立大学 教授 麻生 憲一

《会場》まほろばセンター・多目的ホール（エルト桜井2階） 近鉄・JR桜井駅南口

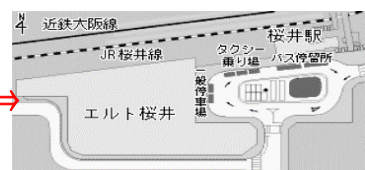
《主催》桜井市市民活動交流拠点運営協議会

《共催》桜井市・奈良県立大学

《定員》150人（申込み不要・先着順）

《開場》両日共通12:00～

桜井駅南口すぐ⇒



※エルト桜井内の有料駐車場は台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

お問い合わせ先 〒633-0091 奈良県桜井市桜井1259

桜井市市民活動交流拠点運営協議会

TEL 0744-43-7777

協働企画 「公開講座」 (全4回)

本格的な少子高齢化の到来により、全国でさまざまなまちづくりが行われている中、「いつまでもここに住んでいたい!」「一度は訪ねてみたい!」と思えるまちとは何か?

2日間全4回の講座を通じて、地域住民と来訪者、双方の視点からこれからのまちづくりに必要な発想について考える。

1日目

2015年2月7日(土)

① 13:00~14:30

「道の駅の展開と役割」

奈良県立大学 准教授 津田 康英 (つだ やすひで)

道の駅は、人と人、地域と地域の交流によって文化・風景・産物等を通じて地域が持つ魅力を知ってもらえる場となることを目的として制度設計がなされた。地域間の協力・連携に結びつくような地域づくりの拠点を目指して、地域が一体となって道の駅に関わることも多くなっている。平成5年4月に103か所の登録から始まった道の駅は、現在では1030になっている。近年は、快適な休憩、食事・買い物、情報収集だけでなく災害時の避難拠点などの役割も求められている。

② 14:45~16:15

「観光客の望む交通体系と地元の意識」

奈良県立大学 教授 新納 克廣 (にいしろ かつひろ)

日常利用する交通手段と交通への意識は地域によって異なる。観光客を受け入れる地域と訪れる観光客との間に交通に対する意識のずれがある。その例が、公共交通サービスの情報提供不足である。また、観光シーズンにおける自家用車の通行規制のように、一部の観光客の要望に合わない施策でも、長期の観光振興に役立つことを説明したい。

2日目

2015年2月21日(土)

③ 13:00~14:30

「文化情報発信による地域活性化 (桜井市のまちづくりの成功ポイント)」

奈良県立大学 准教授 高津 融男 (たかつ よしお)

滋賀県長浜市の商店街は、「黒壁」という伝統建築の保存活動から出発し、その活用方法としてガラスの製造販売を開始し、ガラスの文化情報発信を基本コンセプトとしてきた。その背景となる考え方と具体的な取り組みを紹介し、桜井市での地域活性化の成功のヒントを探る。(桜井市の各市民団体と本学学生が協働するまちづくりを事例にして)

④ 14:45~16:15

「着地型観光による地域振興」

奈良県立大学 教授 麻生 憲一 (あそう けんいち)

旅行業法の改正により、多くの地域が着地型旅行商品企画に取り組んでいる。地域発信型の観光とは、地元の人でなければ分からない地域の良さを地域の人たちとの交流を通じて楽しんでいく観光である。本講義では、明日香村で実施されている着地型観光を紹介し、地域が抱える課題などを論じていく。